
平成 31 年度 交通に関する山田地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 4 月 25 日（木） 14:00～15:30

場 所：楽々園裏ふれあいセンター

事務局：萩市商工振興課、日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 10 名



1.開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2.挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3.議事

(1) 資料 1「萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針（案）について」

資料 2、3「萩地域の公共交通の課題と将来像（案）について」

事務局：資料 1、2、3 を説明（省略）

意見交換：

参加者：山田の若宮神社行については、補助金額はどの程度か。

事務局：実績は年間 450 万円/年である。但し、金額が高いから廃止するという話ではない。

参加者：たまに見かけるが、全く乗っていない時と、なぜこんなに乗っているのかというくらい乗っている時がある。利用を増やすのにどうすればいいかという話である。

事務局：若宮線は、若宮神社周辺では路線バスしか無いため維持している状況。この他に良い方法が無いのか、例えば自家用有償旅客運送だとか様々な方法を考えていきたい。

参加者：各地区でまとまった要望を出すほうが市としては考えやすいのか。山田地区は道路の整備もなっていない。

事務局：例えばタクシーを使った輸送を考える。また、三見のように住民主体で移動手段を担っているものもある。交通事業者が行かない交通空白地をどうするかが大きな課題である。自宅からバス停や駅まで行けないという高齢者もいる。

参加者：三見地区のぐるっとバスは、前日までの予約というのは初めて知った。もっと柔軟なものかと考えていた。

事務局：地域のボランティアの方が運転しているため、タクシーとは異なる。

参加者：地区に車を貸してくれたらいいと思うが、地域で運転を担う者も高齢者となるため、運転士の健康面が心配になる。また、説明内容が理解しにくかったため、質問もしづらい。将来像について詳しく説明していただけないか。

事務局：市では3つの柱を考えている。(資料3、P26の①～③) ひとつは幹線と支線の明確化による効率的な運行体系を構築する。現在は高齢化が進んでおり、自宅から出るところから移動支援を考えなければいけない。三見のように地域主体、住民主体という例もある。これからは住民と協働して行政と事業者と共にやっていかねばならないと考えている。将来像(案)を基に具体的な施策に落とし込むことを考えている。

参加者：住民主体である場合、運転士が高齢者であるため、健康確保が難しい問題だと感じる。事故が怖い。

事務局：三見の例では、地域住民の方を運転士として登録し、公用車を運転して頂いており、保険は市で掛けている。ぐるっとバスは、市の職員や委託した事業者が運転にあたっており、地域毎に様々である。デマンド運行している事例も多い。担い手が問題であるということは理解している。大井地区では介護保険に関連して移動支援事業を始められた。

参加者：免許返納した後の足の確保は重要である。ただ、バスでは不便であると感じている。都合の良い時間にバスが来るといいが。

参加者：路線バスを活用している。タクシーも使っている。バスについては、いつまで市と事業者で維持できるかを心配している。現在はそこまで不便を感じていないが、人口が減ると、ある程度我慢せねばならないのは分かる。しかし路線が無くなったり、減便されたりすると困る。山田農協前などのバス停での乗り換えがスムーズになればいいかもしれない。

他県では、高齢者になったら、お試しとして無料で乗られるパスを提供している事例があると聞いている。

事務局：運賃に関しては、高齢者への支援として利用しやすい運賃体系を考える。交通結節に関しては、一つの箇所で乗り継げないという例などはしっかり考えていきたい。すぐに変更するというのは難しいが、出来るところから改善を重ねていきたい。

参加者：若宮神社発の朝の便は、比較的乗っている。

事務局：若宮神社線は高校生の通学のためのダイヤの名残で7時台に出発するが、高校生が乗っていないのであれば、もう少し遅くして高齢者が使いやすくすることも考えられる。

参加者：高校生が、たまに親の送迎で市街地に行っている姿は見たことがある。

事務局：高齢者の移動に適した形でダイヤを変更する手もある。

参加者：便数が重要だと思う。増えると利便性は増す。ただ、空で走る可能性も高まる。公用車を借りて地域で運行する形でも、デマンドなのか、ある程度集合してもらおうかで、やりやすさが変わりそうだと感じる。

事務局：幹線バス停から先の自宅までの足がなかなか確保できていない。

参加者：利用者にはデマンドの方が利用しやすいかもしれない。

参加者：民生委員をしている。認知症診断を受けたところ、まだ運転はできるが、来年は、どうなるか分からないと思っている。ましてや他人様を乗せるということは考えられない。

自分の地域は、以前は賑やかだったが、高齢化率が46.3%となり、高齢者のひとり・ふたり暮らしが多い現状。車の運転もできない方が多い。2年前に免許を返した方を知っているが、後悔されていた。買い物や通院が不便ということだ。

本当に困っている状況があるので、利用者が少ないということは考慮せず、まあ一
るバスを奥まで通してほしい。今は、まあ一るバスのバス停まで徒歩で15分以上
かかる。週に1回でもいいので、困っている地域に走らせてほしい。病院であれば
予約制なのでバスが利用できると思う。

利用人数は関係なく、ひとりでも困っている人がいれば運行してほしいと思う。

事務局：まあ一るバスは利便性を考えていきたい。現在は地域内を循環するという観点であ
り、周辺地域まで路線を広げられるかは課題がある。それを補完するのが、新たな
制度だと思う。ただ、受け皿の問題はある。小さな車を活用したコミュニティ交通
など、考えていきたい。少人数でも支えあいを考えてもらえると、市としても支援
ができる。

参加者：いつまでに計画ができるのか。

事務局：今年12月を考えている。方向性を定めて、運行に関しては地域ごとに整理してい
きたいと思っている。

参加者：地区長が要望した場合、反映されるタイミングはあるのか。

事務局：要望はお聞きしたい。12月に計画が策定されても、短期的中長期的なものに分け
て取り組んでいきたい。

参加者：地区のまとめ役の方の申し入れのタイミングがあるということを知って安心した。

事務局：計画が出来たら、様々な場面を使って地域のお話を伺っていきたい。

参加者：身内が通院した際に自分が送迎したが、公共交通があればいいと思っていた。

事務局：周辺部の方は足が無いので、免許返納は難しい実情は分かっているの
で、返納した後に移動ができる体系を今のうちに作っていきたくて考えている。ただ、全
ての方を満足させることは中々難しいと思う。事業者も市も苦しい状況である中
で新たな方法を考えていきたい。

市のぐるっとバスでは、様々なニーズの全てには応えられていない。自家用車を使
って支えあい交通を考えられる際は、ぜひ市に相談いただきたい。

参加者：川上地域はぐるっとバスがあると聞いていたが、どうなっているのか。

事務局：バス停を作って、定時定路線で運行している。

参加者：旧町村はぐるっとバスがあるのか。

事務局：そうである。交通空白地対策で運行している。

参加者：バス停の待つ位置が歩道にあるが、待合所があるといいと思っている。

事務局：待合環境の整備という観点は重要である。どういう対策ができるかは検討してい
きたい。市で全部作るのは難しい。他都市では、自治会の整備などの例もある。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映し
ていきたい。

以上